

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年6月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691700019
法人名	医療法人 松風会
事業所名	松風の里
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽52番地3 (電話) 099-472-0911
自己評価作成日	令和元年5月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年6月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に同法人の医院を併設している。看護師が1週間に1度利用者様の検温や状態観察を行い日頃の健康状態を把握している。体調不良や緊急時には内線電話やメールで医院に報告し、早めの医院受診が出来る流れが出来ている。職員に看護師や准看護師が多数勤務しているため、医療面が充実している。医院との連携が密に取れている事でご本人やご家族の安心につながっている。

各ユニット毎に毎月行事を計画しており、利用者様に季節感や楽しみを感じてもらえる様に工夫している。お天気の良い日にはベランダで日光浴を兼ねて茶話会を開くこともあり、利用者様にも喜んでいただいている。

運営推進会議は地域の方とご家族に参加して頂いている。去年は推進会議メンバーの地域の方に講師を依頼し、『思いやり共生』というテーマでお話をして頂いた。年に2回の消防訓練ではご家族に利用者様役・地域の方に救助者役をしてもらい、実践に役立つように訓練をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、母体医療機関に隣接して建てられており、職員に看護師も多く、日常の状態変化観察に優れ、定期受診及び緊急時を含めた24時間の医療連携体制が整っている。

・町内会に加入しており、利用者の高齢、重度化が進み地域行事への参加は難しくなっているが、利用者が楽しみながら住民と交流できるよう、文化祭や駅伝応援、お釈迦祭り等への参加に取り組んでいる。

・施設長及び管理者は、資格取得の支援やテーマを決めた勉強会を計画的に実施し、職員のレベルアップを図っている。計画的な有給の取得の為に人員確保をする等、就業環境の整備にも取り組んでいる。

・長い期間勤務している職員も多く、入所者の意向や希望の流れをよく把握でき、職員間の連携により個々人の支援ができています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各ユニット毎に理念があり、リビングの良く見える位置に設置してある。申し送りの前には必ず夜勤者と日勤者で唱和し業務に入るようにしている。	各ユニット毎の理念をリビングに掲示している。申し送り時に理念を唱和し共有してケアにあたっている。ケアの振り返りは毎月のカンファレンス時に実施し、理念に沿ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	香月集落に加入し町内会からの回覧板を回覧し地域の行事や出来事を把握するようにしている。また、運営推進会議メンバーに地域の方々がおられ直接情報を得られるよう努めている。	町内会に加入し、総会や地域行事及び文化祭や市の祭り等に参加し、住民との交流を図っている。運営推進会議にも地域代表が参加して情報共有している。月1～2回ボランティアを受け入れており、住民からの野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しその中で施設の様子や出来事をふまえながら認知症について話をしたり質問を受ける機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では利用者の様子やヒヤリハット報告を行っている。又、消防訓練にメンバーの方やご家族に参加して頂き施設内の様子を見てもらっている。その中で意見を頂きユニットへ報告し今後のサービスに繋げていけるよう努めている。</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ヒヤリハットを含めた事業所の状況報告と意見交換を行っている。メンバーが講師を務め、講和をすることもある。住民代表の参加者が多く、地域の高齢者の情報交換等の機会にもなっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市介護保険係に運営推進会議や消防訓練に出席して頂き施設内や利用者様の様子を伝えてご意見を頂き改善に努めている。分からない事はその都度尋ねている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議や消防訓練に参加してもらったり、出向いての相談等で連携を図っている。生活保護担当者とも同様に協力関係を築いている。市の研修会に参加し情報収集に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年に2回(1月7月)身体拘束に関する勉強会をユニット職員全員参加で実施している。3カ月に1回身体拘束適正化委員会を開き会議の内容をカンファレンス時に全職員に伝達している。</p>	<p>3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し内容を全職員に伝達している。年2回勉強会を開き、正しく理解しケアできるように取り組んでいる。言葉遣いは職員間で気をつけており、不適切な言葉は勉強会で取り上げて研修している。外出希望者には、一緒に散歩をしたり家族に面会の協力を依頼する等の対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年に2回(2月8月)虐待に関する勉強会をユニット職員全員参加で実施している。その中で各職員が自分の介護を振り返れるよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>利用者さんが日常生活自立支援事業の金銭管理サービスを利用するのをきっかけに日常生活自立支援事業のパンフレットを見て勉強会を行った。成年後見人制度の勉強会を行ったこともある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に利用者やご家族に不安や疑問点を尋ねて安心して入居できるよう心掛けている。サービス内容について十分な説明を行い理解して頂いた上で契約書にサイン捺印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族が面会に来られた時にスタッフから声を掛け意見や要望がないか尋ね記録に残し対応している。推進会議案内のはがきにご意見欄を設けご家族の意見を自由に書き込んで頂けるようにしている。</p>	<p>利用者には、日常の会話の中で意見等を聞いている。家族には、面会時に懇談したり、運営推進会議の案内はがきに意見欄を設けている。オムツ使用についての意見を受けて、利用者の身体状況と各月の使用状況を説明すると共に、排泄用品の検討とケアの見直しに取り組み、改善に繋がった例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフから意見や提案がある時は運営会議で協議事項として挙げ、検討している。決定事項については施設内メールやカンファレンス時に報告があり全スタッフに周知できるようにしている。	管理者は、ユニットのカンファレンス時に出された職員の意見等を運営会議で検討し、反映できるよう努めている。給与や有休についての質問は事務職や社労士から説明を受け、安心して働ける環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	研修の参加・資格の取得や業務内容の見直し話し合いを行っている。介護処遇改善加算ではポイント制を導入しスタッフそれぞれが向上心ややりがいを持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対しては日ごとに担当を決め基本的な介護が出来る様に指導を行っている。また認知症についての知識を深めてもらうため勉強会を行っている。カンファレンス時にはテーマを決め勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加した時は他の施設の方と積極的に交流をはかり情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問を行っており本人・家族・職員から今の様子などの情報収集を行いホーム職員に点達している。入居開始とともに安心して生活できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前訪問時、家族や職員から情報を収集している。入居時担当者会議を実施し本人や家族から不安や要望などを聞き介護に繋げる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前訪問・担当者会議から収集した情報をケアプランに取り入れ、本人にとって必要なケアを見極め支援していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活背景を知り、人生の先輩であるという敬意を持って接し、職員と共に日常生活の出来る事のお手伝いをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者会議時、家族からの要望を聞きケア内容に活かしている。ケアプランに家族によるケアも取り入れている。2ヶ月に1回担当者が個人宛にお便りを作成し今の様子をお知らせしている。緊急時には電話で連絡を取るなど関係性が築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活背景を知りご本人や家族からなじみの人や場所を知り可能な限り行事やドライブを兼ねていける様に努めている。面会があった時はゆっくり過ごせるよう環境を作っている。	本人の生活歴や習慣から情報を得ている。家族の面会を増やす工夫をしており、面会時は居室でゆっくりできる雰囲気作りをしている。親類や知人の面会もある。地域の祭りや駅伝応援、ホームの行事で外出したり、家族と墓参りや外食で、これまでの生活や関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や状態を把握しグループワークやティータイムなど談話する機会を作っている。会話の難しい利用者は職員が間に入るなどし、孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もしご家族が立ち寄られた際には話を聞き、必要があれば相談に応じる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時ご本人にここでどのような暮らしたいのかの要望を聞きケアプランに記している。介護する中でご本人ご家族の要望を取り入れる様に努めている。実施していくのに難しい場合はご本人の状態を考慮し本人・家族へ説明を行いケア内容を決定している。	契約時に本人や家族の意向や思いを聞きケアプランに記入している。日常の会話で、本人の思いを把握するように努めており、表出が困難な場合は、家族の情報を参考に、日々の関わりの中で表情や行動等から推測し、得た情報は申し送りで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時他施設などからのサマリーや本人・家族からの情報により生活背景を知るよう努めている。日頃の会話から昔のことを引き出しバックグラウンドを把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護する中でその方の状態を知り日々変化する様子を申し送りをする事で全職員が把握できるように努めている。カンファレンス時に情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し各担当でモニタリングを行っている。カンファレンスの中で課題を話し合い介護に繋げている。6か月ごとに担当者会議を行い本人・家族・計画作成者・ケアマネが参加し意見交換を行い介護計画に活かすよう努めている。	毎月のカンファレンス時に把握した職員の意見を参考に、担当者会議を6ヶ月に1回実施し、本人、家族、職員で検討して介護計画を作成している。毎月のカンファレンスでモニタリングを実施し、6ヶ月毎及び状況変化時にその都度計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録が出来る様に台帳にケアプランを挟み毎日の様子を個人の経過記録に記入するようにしている。医療面やヒヤリは色を変え見やすくするよう工夫している。1か月単位で様子が分かるようケアチェック表を用いモニタリングを行い介護計画の見直しに活かせる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人一人の状態を把握し本人・家族のニーズを知る事が出来る様努めている。希望があれば出張散髪や散歩・買い物の生活支援など可能な限り希望に添える様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が参加している運営推進会議メンバーに消防訓練に参加して頂き協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の希望を聞き同敷地内に併設されている医院をかかりつけ医としている。ホーム内の看護師が医院受診を行っている。急変時にはホーム内看護師が医院との連絡・受診支援・家族への報告を行っている。専門機関への受診が必要な時は家族へ連絡を取り適切な医療を受けられる様努めている。	希望で、全員が母体医療機関をかかりつけ医としている。24時間の医療連携体制が整っており、定期受診及び必要時の往診を実施している。日常の健康管理はホームの看護師が行う。他科受診は家族対応を原則にしており、職員同行の場合は結果を家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の検温や状態の変化・異常に気付いた時はホーム内看護師へ報告し対応するようにしている。必要があればかかりつけ医に報告し受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院が必要な状況となった場合には家族に連絡を入れ看護師と共に医療機関へ行くようにしている。ホームサマリーとかかりつけ医からの診療情報提供書を持参し入院先のスタッフへ情報提供している。入院が長くなった時はスタッフが見舞いに行き情報を得ながら退院時期など連絡調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時本人・家族に「重症化した場合の対応に関する指針」の説明を行っている。状態の変化に応じてかかりつけ医から家族へ説明を行い今後の方針について話し合う様になっている。医院看護師とも連絡を取り協力しながらホームで可能な限りの支援が行えるように努めている。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について、指針で説明し同意書を貰っている。段階的にかかりつけ医から説明があり、本人、家族の意向に沿って医師、看護職員、介護職員が連携して支援に取り組んでいる。看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDや吸引器など急変時に必要な道具の場所を全職員が把握している。かかりつけ医や協力機関などの電話番号一覧表や事故傷病発生時のフローチャートを分かりやすい場所に置き周知できるように努めている。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回運営推進会議のメンバーも参加し避難訓練を行っている。11月の避難訓練時は消防職員から直接指導を受けている。その都度話し合いを行い協力体制を作っている。</p>	<p>年1回消防署立会いの下、昼夜想定避難訓練をしている。1回は自主訓練を行い、2回とも運営推進会議のメンバーが参加している。水タンクや発電機、スプリンクラーがある。地域の人も入った緊急連絡網がある。備蓄は米、缶詰、カップめん等の用意をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の生活歴や性格を把握し人生の先輩であるという尊敬の念を持って声掛けや介護をする様努めている。排泄の声掛けは周りの方に気づかれないよう誘導し入浴時はカーテンを使用し他の方から見えない様配慮している。	利用者一人ひとりの生活歴や習慣・性質を把握して人格を尊重した支援をしている。研修を実施し、排泄介助時のさり気ない声かけやトイレ・居室のドアは閉める等、羞恥心への配慮をしている。申し送りは利用者には内容が分からないように実施し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で介護や誘導する際、十分な声掛けを行い意思確認するようにしている。ティータイム時飲み物やお菓子を好みで選んで頂き、歩かれる方には何をしたいのかを尋ね自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人その方の生活パターンや好みを把握し本人の希望を確認した上でテレビや音楽・ビデオ鑑賞・日光浴など楽しんで頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が持ってこられた化粧道具を使いお化粧をして頂いている。服を選べる方はスタッフと一緒に選び意思表示の難しい方は職員がその方に合わせた服を選び着て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の様子を見て頂き味見をしてもらっている。旬の野菜の調理方法を教えて頂くなど食べる楽しみが得られる様支援している。利用者の好みのメニューを取り入れ食欲のない方でも少しでも食べて頂ける様努めている。	献立は職員が1週間ずつ作成し、旬のものを使用し、個々に応じた食事形態に合わせて調理している。下拵えや片付け等を職員と一緒にしている。誕生日の好物、季節の行事食、バイキング、外出、出前等、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の状態に応じた食事形態を考えブレンダー食・とろみ食・刻み食にしている。食事がとれない方にはかかりつけ医に相談し経腸栄養剤を処方してもらっている。飲用が難しい方はゼリー状にして摂取して頂くなど工夫している。一日の摂取状況が分かりやすいようにケアチェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の状態に応じブラシやガーゼを使用し口腔ケアを行っている。口腔内の状況を観察し必要があれば家族へ連絡し歯科受診を勧めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し個々の状態に応じ排泄誘導やおむつ交換を行っている。尿・便意の無い方でも立てる方はトイレ誘導を行い少しでも気持ちよく過ごして頂ける様にしている。おむつ使用料の把握と職員の意識を高めるためおむつ使用チェック表を使用している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、状態に応じた見守りや声かけ・時間誘導をしている。日中はトイレでの排泄を基本にしており2人での介助もしている。個々に応じた排泄用品を検討し、布パンツに改善した例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のある方は水分補給に注意し腹部マッサージやかかりつけ医に相談し下剤の調整を行っている。ケアチェック表に排便チェックがあり個々の排便状態が分かりやすいようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	3回/1週入浴を実施している。入浴中はプライバシーの保護に注意し、会話を楽しみながらゆったりとした気分で入浴して頂ける様努めている。個々に応じ湯温を調整し冬場は浴室を暖かくし快適な環境で入浴できる様支援している。	週3回の入浴を基本に、午前中の時間帯で実施している。カーテンを閉めてプライバシーを確保し、特別浴槽で介護者の負担も少なくゆったりと個浴を楽しんでもらっており、入浴を拒む利用者は現在はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の身体的状態に応じ居室で休む時間を考慮している。夜間よく休めるよう日中活動して頂き必要に応じてかかりつけ医に相談し眠剤を処方し服用している。安楽な体位の工夫を行い居室の環境を整える等少しでも気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が受診介助している。内服薬変更時には申し送りを行い職員に周知できる様になっている。お薬手帳や薬情はいつでも見られるようにしている。服薬時には職員同士声掛けチェックを行い誤薬が無いよう確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態や性格を把握し本人の希望をふまえ洗濯物たたみ・モップかけ・お盆拭きなどのお手伝いをして頂いている。テレビやビデオで好きな番組を鑑賞し楽しんでいる。日光浴・散歩を行い気分転換が図れるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の体調や天候に応じ希望があれば散歩・日光浴を行う様にしてしている。可能な限り近くのパン屋などへ職員と一緒に買い物に出かけている。各月の行事での遠足やコスモス・あじさい見物など外出する機会を作っている。	日常的に散歩やコンビニに出かけたり、玄関前やベランダ等で日光浴をしている。計画を立てて、初詣や季節の花見、駅伝応援、お釈迦祭り、文化祭、外食に車椅子対応のリフト車を使用して出かけている。家族の協力で外食等で外出・外泊もあり、できるだけ出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人の希望に応じ預かり金を頂いている。その中から必要な物を購入したり本人と一緒に買い物に行くなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族の了解を得たうえで本人が希望すれば直接電話で話して頂いている。お手紙が届いた時には本人へ渡し見て頂き、読めない方にはスタッフが読み聞かせしている。ご家族へはお手紙が届いた事を電話で報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は担当職員が本人の希望に沿って写真を貼ったり気持ちよく過ごせるように掃除や模様替えをしている。廊下には毎月の行事の写真を掲示しいつでも本人・家族がその時の様子を知ることが出来る様になっている。リビングは季節ごとに壁飾りを行い目で楽しんで頂けるよう工夫している。好みの応じラジオや音楽をかけ過ごしやすい空間作りに努めている。	リビングは一角にキッチンが設けられている。壁に季節の作品が飾られ、床は毎食後にモップ掛けを利用者も一緒に行っており清潔である。室内は空調や採光が適度に調節されており、利用者は自分の椅子やソファ等の好みの場所でくつろげるように空間作りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人の性格や状態に応じリビングでの席を決めている。会話の出来る方、テレビの好きな方、1人で過ごしたい方それぞれが居心地よく過ごせるよう考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際馴染みの物や本人・家族の好みの物を持って来て頂くようにしている。テレビ・ラジオ・写真など本人の希望に応じ家族に相談し持って来て頂いている。配置は本人と一緒に考え過ごしやすくなるよう努めている。	介護用ベッド・洗面台・エアコンを備え、掃き出し窓からベランダに出られる開放感ある居室である。テレビやラジオ、ダンス、衣装掛け、好みの寝具やまくらを持ち込み自分らしい生活をしている。ぬいぐるみや写真を飾って本人らしい部屋作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置し立位の出来る方にはL字柵のバーを取り付ける等自分の力で立ち上がったり移動できる様工夫している。居室が分かりやすいよう入り口の扉に名前を貼り間違えないようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない